



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】 質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 21 R6. 02. 01

文責 学校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

一人一人の『ゲルニカ』に向けて — “青の時代” をどう生きるか —

天才画家と知られるピカソ (パブロ・ピカソ 1881~1973)。しかし、よく言われるのが「何がすごいのか分からない…」。

「私にも描ける」という意見は極論にしても、ひと目見ただけではむちゃくちゃで何をどう評価すればいいのか、私のような素人にはさっぱり分かりにくい…。(右図『泣く女』)

しかし、左下の『15歳のデッサン』を見てほしい。



『泣く女』

MUSEY 編集部 <https://www.musey.net/54/55>



『15歳のデッサン』

MUSEY 編集部 <https://www.musey.net/483/484>

ピカソのデッサン力、構図力はともに若い時から驚異的な技巧であり、コンクール審査員を唖らせつつも、年齢詐称の疑惑までかけられたことさえあったそうだ。

私たちは『ゲルニカ』や『泣く女』など、いわゆる「どこがすごいかわからない」とされるピカソの絵画に触れることが多いが、『15歳…』のように素人目にも“ちゃんとした絵”として映る写実的な絵画もピカソは実際に描いている。つまり、基礎がしっかりした上で応用を利かせている。これがピカソのすごさである。

昨年、ポーラ美術館 (神奈川県) は、ピカソが描いた『海辺の母子像』の下層部に別の絵が折り重なっていることを最新の科学調査によって指摘した。この絵は20代前半の“青の時代”の作品だ。この時期、彼は透き通るような青色を基調とした一群の作品を残している。『盲人の食事』『アイロンをかける少女』など、若いピカソは乞食や浮浪者、旅芸人など、執拗なまでに社会の底辺で生きる人々を描いている。きっと、そうした人々の生きる苦悩や悲しみを自らの心の深いところで受け止め、人間の实相を捉えようとしたのだろう。

後年の大傑作『ゲルニカ』も若い時期のこのような経験なしには完成しえなかったと思う。他者の痛みを自分の痛みとして感じることができる“共感”の力こそが彼の絵を根底で支える力となっていると感じる。

武高生のみんなが将来どんな『ゲルニカ』を描くことができるか。それは一人一人が“青の時代”に何をつかみ、何を養いうるかにかかっている。

現実を直視する鋭い観察力、それを弁証法的に捉え直そうとする幅広い批判的精神、そしてその奥底に潜む問題点を見抜こうとする深い洞察力、そういう力の“種”をこの時期自身に植え付けてほしい。私が常々「具体」と「抽象」の重要性を説く所以である。

深掘りは情報収集が命！ — 中高合同「探究」発表会 —

1月25日(木)、武雄市文化会館大ホールにおいて、武雄青陵中学校と一緒に今年度取り組んできた「探究」の成果発表会を開催しました。

探究では、①「知りたいことに近づこうとする力」②「どうにかする力」③「新しいものを生み出そうとする力」④「分からなさに向き合う力」が鍛えられます(古賀浩和校長談)。これはすなわち“コンピテンシー”と呼ばれるもので、活動のエンジンに相当する力です。



ややもすれば教科の学習は知識のインプットをペーパーテストでアウトプットすることに汲々とし(実際、大学入試に必要な知識はたくさんある!)、それが高校の勉強だと思いがちです。しかし、このエンジンとなるコンピテンシーを鍛えることで教科の学びがよりスムーズになっていくのです。

そのコンピテンシーというものは“実の場”、つまり複数の教科内容の組合せによって成り立つ社会の問題に“正しく”向き合うことによってもっとも鍛えることができます。“正しく”とは単なる思い付きや一つの情報による結論付けに終わるのではなく、複数の情報、それもネット上の情報だけではなく書籍の情報にあたりながら、自らもフィールドワーク(調査や実験、取材など)によって身近な真実を明らかにすることです。そのことで生まれた“熱量”がエンジンをより大きくしっかりしたものにしてくれます。

高校生の発表は中学生の発表と違って調べ学習の域を超えるものを感じました。プレゼンの華やかさに惑わされず、中身のある探究の仕方を自分の思考の型として身に付けて卒業してほしいと強く願っています。“探究を習慣にする”学校にしていきたいと思います。

【協働学習によるテーマ研究】(1年)

- ① 『武雄温泉のれ・き・し♡』
- ② 『ムヴィサウ～武雄をサウナ街で有名に～』

【グループ研究】(2年)

- ① 『救急車の適切な利用』
- ② 『アフリカのクリーンな開発』

【武雄高校からの発表演題】

【まちづくり参画事業活動報告】(1年)

- ① 『TAKEOで楽しく防災しよう!』
- ② 『パペット劇』
- ③ 『てくてくスタンプラリー』

だご汁、うまっ! —郷土料理に挑戦—

1月26日(金)、フードデザイン(2年選択)の授業で「さが食・農・むらをつなぐ“郷土料理づくり教室”」が実施されました。

これは、佐賀県農業経営課やJA さがの支援を得ながら、佐賀の郷土料理を次世代につなぐ、佐賀県の農業・農村のよさを知ることがを目的に行ったものです。



メニューは“つんきいだご汁”、“かけ和え”、“わらび餅”、“みかんジュース”。“つんきい”とは武雄弁で“ちぎる”という意味だそうです。どれもおいしくできました!

図らずも私もご相伴にあずかり舌鼓を打ちました。ふるさとの味はおなかを満たすだけでなく心まで満たされるものだと感じました。ぜひ大事にしてほしいものです。

【当面の主な予定(2月前半)】

- 2日(金) SC来校
- 3日(土) 駿台・全統模試(1・2年)
土ゼミ(3年)
- 4日(日) 合同学習会(2年)
- 6日(火) 特別選抜(1・2年自宅学習)
- 9日(金) 3年最終登校日・漢字検定
- 10日(土) 土ゼミ(3年)
- 15日(木) 学年末考査(1・2年20日まで)

(閑人閑話)冬は駅伝の季節。正月明けから箱根駅伝、都道府県対抗駅伝など大会がたけなわだ▼個人参加のマラソンも今が佳境。土日祝ごとに全国のごこかで10キロのレースなども含めて開催されている▼かく言う私も成人の日に伊万里ハーフマラソンに出場した。コロナ禍以降、満足な結果も出ず、すっかり意気消沈していたが、この大会では自分なりに頑張った感が味わえてよかった▼中高のころは走るのが大の苦手。運動会が苦痛で仕方なかった。歳を取ってジョギングの楽しさを知った▼「子曰く、之を知る者は之を好む者に如かず。之を好む者は之を楽しむ者に如かず」(論語「雍也第六」)。人との競争ではなく自分と向き合うように感じられたとき人は楽しむことができるのかもしれない。僕レベルが言うのもおこがましけれど。(昌)